

更科紀行

僧 似雲・三井武勝著、享保十六（1731年）。茂林脩竹山房刊の雑誌「本道楽」1930年八卷五号（通号47号）の翻刻掲載より。

十八日未明御堂へ詣開帳拝み旅宿へかへりとかくして辰刻はかりに立出鞍骨峠にかゝり荒安といへる處を過此所飯綱が嶽の麓也道すがら千種の花盛にしてかたへの山は紅葉一入盛成りしかば

似雲

分來つる露なかはきそ旅衣秋の花野の色香なからに松杉の戸隠山も枝かはす紅葉は色にあらはれにけり

祐清

分つゝも野邊に千種の花みれはくるゝそおしき秋の山道

武勝

野邊は又千くさの花の色なから染るもふかき山の紅葉分入てけふ社見つれ深山成道のほとりの秋の紅葉

茂綱

幾度か降りては晴る村時雨今一しほの峯のもみちは

戸隠中院にて智泉院といへる寺に宿して中院奥の院へ参手向して歸る折から打時雨て路あしく日は暮て途に迷ふ宿坊より迎の挑灯あり是に力を得て漸かへりぬ

戸隠山五拾三坊 社領千石

奥院

手力雄命  
九頭龍權現  
垂迹正觀音

拾貳坊

中院

思兼命  
垂迹釋迦

貳拾四坊

比丘石ヨリ奥  
女人禁制

寶光院

上春命  
垂迹將軍地藏

十七坊

十九日辰刻中院を出寶光院へ参手向す酢川爪倉峠にかゝる高崎村此間四十八瀬川有小鬼無里鬼無里晝かれ飯すむかふにまちかく新倉嶽虫倉か嶽有（以下略）

註 矢羽勝幸編「江戸時代の信濃紀行集」に、ルビ、句読点、解説付きの全文掲載がある。